



法雲寺
兵庫県美方郡香
美町村岡区村岡
2365

魂のかたち

前回の寺報で一周忌のことだけ「むかわり」と何故言うのか、思いつくままに書かせて頂きました。

おさらいをする、人が誕生するまでに十月十日(310日)、人が亡くなって来世が定まるまで中陰の期間が49日間。この49日間と310日を足せば約360日となり、陰暦で言ってきた1年(360日)とほぼ等しくなる。ですから、丁度一周忌(「むかわり」)を行っている頃に故人の魂を引き継いだ新しい命がどこかで誕生している。それ故、生まれ変わり、身代わりという意味を持つ「むかわ



人生相談の広告チラシ

り」と言う言葉が一周忌の別名として定着しているのでは無いか？

「むかわり」は故人を悼むとともに、新たな生命の誕生と無事の成長を祈る意味が有るのではないかと、言った主旨でした。

魂が主役？

この輪廻転生する考えの根本には、身が変わり、生が変わっても主体となる魂との存在を前提としています。言い換えれば、魂の方が主人公であり、身体は浮き世を渡り歩くための借り物で、一時的な入れ物のような受け止め方です。

しかしながら、我々は今こうして生きている現世しか知らず、もし前世が有ったとしてもその記憶は無く、魂の永続性・永遠性を説かれても簡単には納得できないところがあります。

自信が持てない

かと思えば、この春のことでしたか？ 霊感商法のニューズが何件か続きました。

「易断の占師に「先祖の霊が供養されずに、迷っている」とか、テレビで有名な霊媒師に「不浄霊や動物霊が取り付いている」と言われ、共に「今不幸なのはその霊が祟っているから」と、その霊の供養や浄霊を行うには多額の供養料が必要と言われ請求された・・・」

今更、そんなことを言っている人が居る、また、そんなことを信じてしまう人もいるのか？ と、思うところです。

それらの占師や霊媒師の言うところの霊と、ここで言っている魂が同じものであるのかどうかは分からないですが、霊の姿が見える人には、輪廻転生繰り返す魂の何処の時点の姿を見て、見えると言っているのか？ そもそも霊や魂に姿というものが有るのか？ と考えれば考えるほどに胡散臭く、疑わしい限りです。

魂は自然のパワー？

私自身、魂の姿は目にしたわけではなく想像するしか出来ないのですが、若し生きとし生けるものが全て魂を有しているとするならば、その数は無限以上になります。

魂と言う物の存在は個々別個に存在する特別なものではなく、目にすることは出来ないが、空

気のように全世界を包み込んで生命を育む、「活力源」「原動力」「エネルギー」の集合体の人々は昔から魂と言つて来たのではないかと想像します。

魂が目には見えない自然のエネルギーのようなものとするなら、そのもの自体、増えるものでも、すり減るものでも無く、聖なるものでも不浄なものでもない無垢の存在であり、魂そのものが悩んだり傷ついたりするものでも無いでしょう。

まして占師や霊媒師の先生が指摘する如く、意志を持って「供養されていない」と文句を言つて来り、人に取り憑いたりすることが出来る存在では無いと思います。

魂にとつては却つて、今現在生きている我々の様に人の身体と魂が一体になって生きている状況の方が、様々な事に悩み苦しみ、四苦八苦して、すり減り消耗して、魂にはキツト負担に感じていることでしょうか？(どう感じているかは、皆さんの魂に聞いてみて下さい。)

迷っているのは誰？

先の占師のごとく「迷っている」と言われて動揺し、先方のセールストークに乗せられるのは、「先祖の霊や魂が迷っている」のではなく、「自分自身の心が迷っている」から他無いのでは無いでしょうか。

自分自身の先祖供養や魂に対する不案内なところに付け込まれて、その不安を煽るようなことを言われ、つい先方の話を聞き余計不安になる。本当に迷っているのは、先祖の霊なのか？ 自分自身の心なのか？ は明白な所ですね。

魂や霊の事を考えると、実態が見えないもの、また、存在すらハッキリしないものだから、様々な意見が有り、好きなように言えるところです。

でも、少なくとも魂は我々の内にも有る。そして、魂が生命を育むエネルギーと考え、この自然界に遍在・充満しているものならば、善も悪も、浄も不浄も超越した存在でしょうか、思い悩みながら生きている我々人間より、遥かに優れた存在なのかも知れませんが。

魂や霊のことは魂自身にお任せするにして、我々は長い人生の間、この身と渾然一体と成って預かっている魂を如何にしてすり減らさず、疲れさせずに、上手に付き合っていく生き方を会得する方に重きを置かねばならないように思えます。

こうじつ
廣実叡山学院入学
 ご協力ありがとうございました

皆様から3カ年のご支援を頂きました廣実も、親元を離れての高校生活も満了し、4月からは思いも新たに叡山学院へと学を進めております。

この3カ年間、檀家各家様には「次期住職養成協力」として、ご支援賜りましたが、金額以上に皆様からの暖かな期待が、本人にも心の支えとなり、無事次の段階へと押し上げて頂いたのではないかと感じております。この間のご協力・ご支援深く深く感謝申し上げます。

叡山学院入学式

お陰をもちまして去る4月6日



入学生代表で前に...



新入生歓迎会で

に叡山学院入学式が行われました。思いがけなく、入学式では新入学生代表として院長先生の前で「宣誓文」を読み上げる栄に預り、また、NHK天津放送局が入学席の様子を取材に来ており、思いもしない事が重なり本人以上に後ろで見ていた我々の方が緊張した入学式で有りました。式当日のお昼と深夜の関西地方のローカルニュースでその様子は放送されたとのことです。ご覧になった皆様方は、本人の成長？を実感して頂いたことかと思っております。

入学して彼は2ヶ月が達ち、6月中旬には、天台宗の発祥の地、中国へ学院研修旅行で向かうとの

こと... (羨ましい限りです。)
 二度と無い学生の頃、自由自在に動ける今の時期に様々な経験や体験を積み、自分の物にしてくれればと願うばかりです。

今後とも、お檀家の皆様方には廣実の成長を見守って頂き、良い方向へ進むようご指導をお願いいたします。

鬼瓦修理に関して

昭和58年に皆様のご協力により、現在の屋根瓦に吹き替えてから、約28年の歳月が経過しました。大屋根に乗っている鬼瓦ですが、鬼瓦の各部分を連結している鉄製ボルトが酸性雨の影響を受け、錆びて膨張し、鬼瓦を圧迫し一部亀裂が生じているとのことです。

今直ぐ崩壊落下の危険と言っわけでは無いのですが、亀裂は年々大きくなる事は有つても、縮まる



鬼瓦の落下が一番気掛

ことは有りません。出来れば本年度中に修理・交換に向けた準備に着手出来ればと考えております。

役員総会開催

5月22日に総代役員10名の出席を得て平成22年度檀徒会役員総会を開催いたしました。総会では通常の予算決算の他、役員改選などを行いました。新体制は右記の通り。

- 会長・総代 上田 優
- 副会長・総代 山根福平
- 総代 岡田幸雄
- 総代 (人選中)
- 会計 井上信行
- 監事 南垣 功
- 上田正教

(任期H24年3月末迄)
 役員の皆様方、どうか宜しくお願致します。

法雲寺一四世一五〇回忌

一八世三十三回忌法要

来る6月19日に14世・議澄法印一五〇回忌・18世誼顕法印三十三回忌を巖山寺住職をお迎えし実施いたします。今回は檀家代表として総代各位にご参列願います。午後三時からの本堂でのお勤

めには、ご自由にお参り頂けます。お時間がある方は是非お参り下さい。

期日：平成22年6月19日
 会場：法雲寺本堂・午後3時